



二口山塊のふところ深く発した清水は、流れを集めて名取川となり、やがて太平洋に注ぐ。この奥秋保の急峻な地形を巡ってきた流れは、ところどころに個性煌めく瀑布を生んだ。

その威容を間近に望めるものもあれば、人を簡単には寄せ付けないものもある。いずれも類まれなる大自然の造形として、秋保が世に誇る貴重な財産である。



あきうの滝めぐり — おおなめざわ 大行沢編 —

いっぺみっぺ 秋保 あきうの滝めぐり — 大行沢編 —

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

清涼の気満ちる裏磐司沿いのルート
大行沢とその支流には
時を忘れさせる出会いがある
奥深き秋保の美しい滝をめぐる旅へ



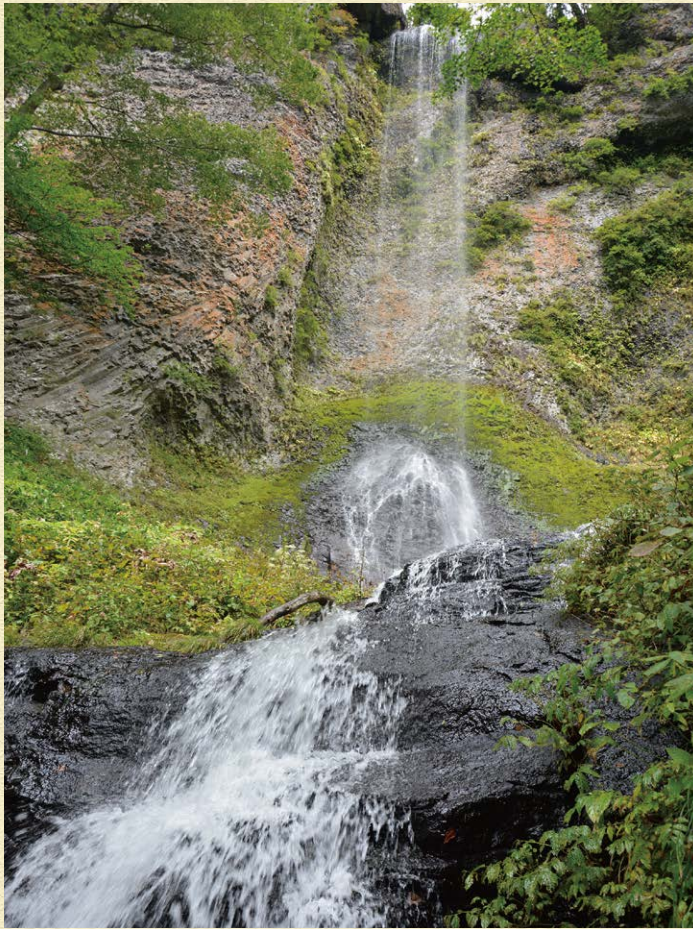
1 駒止の滝 こま どめ 落差8m

大東岳登山道裏コースを樋ノ沢に向かって約35分。平坦な道からいよいよ登りに転じる所の左下に名瀑その1はある。小振りながらエメラルドグリーンの滝壺と相まって美しさが際立つ。



2 白滝 しら たき 落差70m

登山道の分岐から、白滝つたいの険しい山道を20分ほど、息を切らしながら登りつめると、その美しさと落差から二口を代表する直瀑の一つ白滝がある。落差5mの前衛滝と合わせて飽くことなき風情だ。



※ここで紹介している滝の数々は、いずれも険しい場所にあります。
実際にご覧になるには、十分な装備と、しっかりとした自己の体調管理が必要です。
※滝の落差は、実測値ではありません。

滝と滝の間のおおよその所要時間

本小屋(登山口)

35分

① 駒止の滝

15分

白滝分岐

20分

② 白滝

20分

白滝分岐

15分

③ 雨滝

20分

④ 京沢 梯子滝 (裏磐司展望台)

あきうの滝めぐり — 大行沢編 — おお なめ ざわ

3 雨滝 あめ たき 落差65m

巨大な一枚岩の上から雨が降り注ぐごとく、大きな飛沫のカーテンが陽の光の中で優雅にたなびく。傍らに佇む雨山神社は、天水分神(あめのみくまりのかみ)を祭神として、下流の民を見守っていると云われる。



付近概略図



4 京沢梯子滝 きょう ぶち さわ はし こ たき 落差35m

登山道・裏磐司展望台から大行沢を見下ろす懸崖の先にそれはある。大東岳山頂から流れ出た沢の水は、清楚な二筋の滝となって本流に交わっていく。(滝壺への道は未整備です。)



裏磐司展望台付近からの眺望



番外 秘境の三名瀑

二口の大行沢沿いには、この他にも容易に近寄れない滝がある。選りすぐりの三名瀑がこれだ。



本流 梯子滝 ほん りゅう はし こ たき 落差30m



北石橋 きた しゃつ きょう 落差20m



大東滝 だい とう たき 落差70m